

国語世論調査：「世間ずれ」若者無縁？ 10代正解わずか5%



文化庁が24日公表した2013年度の「国語に関する世論調査」で、「まんじりともせず」「世間ずれ」の慣用句を半数以上が誤用していることが分かった。若い世代ほど誤って使う傾向があり、「世間ずれ」を10代で正しく理解しているのは5%だった。また、10年前に比べ「意味が分からない」と回答した割合が増えた慣用句もあり、同庁は「使われる頻度によって認知度に差が出ているようだ」とみている。【三木陽介】

慣用句は02年度から毎年調べており、今回は六つの言葉を調査した。「まんじりともせず」（眠らないでの意）を正しく理解していたのは、全体で28.7%にとどまった。

「世間ずれ」（世の中を渡ってずる賢くなっているの意）は55.2%が「世の中の考えから外れている」と誤用していた。04年度調査の誤用割合（約32%）から1.7倍に増えた。本来は「ずれ」は「擦れる」の意味だが、「ずれる」（=外れる）を連想する人が多くなったとみられる。

正しく理解している人を年代別に見ると、10代ではわずか4.9%。年代が上がるほど高くなり、70歳以上は54.2%だった。

「まんじりともせず」も同様の傾向で、10～30代は10%前後だが、70歳以上は47.6%。

一方、認知度が低かったのが「他山の石」（他人の誤った言行も自分の参考になること）。「意味が分からない」と答えた人が最も多く35.9%に上り、04年度調査より約9ポイント増。「分からない」の割合は六つの言葉の中で突出して高かった。

「煮詰まる」（意見が出尽くして結論が出る状態）は誤用が40%と高かったが、「分からない」は3%。「世間ずれ」と同様、誤用する人が多いが認知度は高い慣用句について、同庁は「使い方や言葉の由来を動画で紹介するサイト「ことば食堂へようこそ!」を公開している。

同庁はホームページ（<http://www.bunka.go.jp/index.html>）で慣用句の正しい使い方や言葉の由来を動画で紹介するサイト「ことば食堂へようこそ!」を公開している。

◇意味不明外来語、なるべく避けて 使用に「コンセンサス」低く

「キャンセル」の意味は分かるが「コンセンサス」「プライオリティー」は？。『国語に関する世論調査』で、役所の刊行物などで目にする外来語の意味を聞いたところ、認知度が高い言葉でも日本語への言い換えを支持する意見が大勢を占めた。同庁は「分かりにくい外来語はなるべく避けるよう呼びかけていきたい」としている。

2006年に国立国語研究所が日本語への言い換えが可能とした外来語を中心に、10個の言葉を調査した。キャンセルが「取り消し」、メリットが「利点」と同じ意味だと思える人はそれぞれ78%、70%。一方、意味が分からないという割合が多かったのは「プライオリティー（優先順位）」（50%）と「コンセンサス（合意）」（42%）。最近、刊行物でよく目にする「イノベーション（技術革新）」も、3割近い人が「分からない」と答えた。

外来語と、それを言い換えた日本語の両方の意味を同じと理解している人に、官公庁の文書で使う場合にどちらが望ましいかを聞いたところ、10個全ての言葉で日本語に「軍配」が上がった。ただ、「ハザードマップ」は「災害予想地図」という言い換えへの支持が55%と半数を超えたものの、「ハザードマップ」がいいと答えた人も25%いた。【三木陽介】

毎日新聞 東京朝刊 09.25 より

英語 小学5、6年生で正式教科に 提言

英語教育の在り方を検討してきた文部科学省の有識者会議は、小学校5、6年生で英語を正式な教科にし、高校では「時事問題について英語で議論できるようにする」など、学習指導要領に具体的な目標を盛り込むべきだとする提言をまとめました。

26日まとまった提言では、アジアの中でトップクラスの英語力を目指すべきだとして、東京でオリンピック・パラリンピックが開かれる2020年に向けて、英語教育を改革していくとしています。小学校5、6年生で英語を正式な教科にし、簡単な会話に加えて現在、中学校で行っているアルファベットの読み書きも前倒して学ぶほか、小中高校のそれぞれの段階でどの程度の英語力を身につけるのか具体的な目標を学習指導要領に盛り込むべきだとしています。その目標とし

て、小学校で「自分の家族や1日の生活について英語で質問し、答えられるようにする」、中学校で「短い新聞記事やニュースを見て概要を英語で伝えられる」、高校では「時事問題について英語で議論したり発表したりできる」といった例を示しています。また、大学入試では「聞く・話す・読む・書く」の4つの力をはかる外部試験の活用を促すため、関係者で協議会を設置して指針作りを進めるよう提言しています。

文部科学省はこの提言を基に、今後、中央教育審議会で授業の詳しい内容などを検討していく方針です。 NHK NEWS WEB より

【石平のChina Watch】

圧政に盾突くブラックユーモア 日本題材の絶品も

チャイナウオッチャーの日課として中国のネットの世界を漫遊していると、時々、会心の笑みを誘うものに出会うことがある。たとえば先日閲覧した中国の食文化に関するネット上の議論には、次の書き込みがあった。

「われわれ中国人は昔から何でも口に入れて食べる。おいしいものは珍味として楽しむが、まずいものは漢方薬として飲むのである」

なるほど、いわゆる「薬食同源」とは結局そういうことだったのかと、笑いながら妙に納得するのである。

冷めた目で自分と周辺を見て皮肉的な表現で風刺するのは昔から中国知識人の得意技だが、最近それが、中国共産党政権に矛先を向けることがある。

たとえば先月、米ミズーリ州で黒人暴動が起きたことを受け、中央テレビ局が「アメリカは人種差別の国だ」と批判したところ、民間のネットユーザーはさっそくかみついた。「アメリカは人種差別の国なら、どうして黒人のオバマさんが大統領になり得たのか。中国にも多くの民族があるのに、党と政府の指導者はいつも漢民族ではないのか」と。このような鋭い問い詰めに、当の中央テレビ局は答えようがないであろう。

あるいは以前、中国の国防省が「日本には人権、自由、民主を語る資格がない」と見当違いの日本批判を行ったところネットから上がってきたのは次のような反応だ。「日本に自由を語る資格があるかどうかは僕にはよく分からないが、資格のまったくない国は確かに一つある。それがどこの国か。僕たちにはそれを言える自由がないのである」

それは、私が今まで見た中国流ブラックユーモアの絶品の中の絶品だが、政府当局がなぜデタラメな日本批判を行っているのかに関し、ネット上で次のような指摘があった。「1940年代、毛沢東は日本軍を利用して国民党政権を潰した。80年代、トウ小平は日本の経済援助を利用して経済成長に成功した。そして90年代、江沢民は日本を利用してナショナリズムをあおり立てて政権を維持した。今の政権も同じことをやろうとしているのではないかと」。

なるほど、近代から現代に至るまでの日中関係史は、まさにこの書き込みの一つによって完璧に総括されたような気がする。

共産党政権を題材にしたネット上のブラックユーモアはまだある。

「中国人のモラルが低いとよく言われるが、それは、モラルの一番低い人たちが中国を支配しているからだ。彼らは中国人全員のモラルが自分たちより高くなることを許さない。モラルの高い人間を監獄に入れたり殺したりして国民のモラルを落とす教育を実行した。だから中国人はこういう人種になるのだ」

「当局は“デマを流した”としてネットユーザーを逮捕したのはなぜなのか。デマを流すことは彼らの専横事項だからだ。政府は破廉恥な売春婦を取り締まるのはなぜなのか。似た者同士は嫌い合うからだ。某政党は民間のヤクザ組織を全滅させたのは一体なぜなのか。競争する同業者の存在を許さないからだ」

このようにして、中国のネットユーザーたちは、「共産党」や「中国政府」などの固有名詞をいっさい出さない巧妙な表現をもって、政権党と政府に対する痛烈な批判と皮肉を毎日のようにまき散らしている。今、習近平政権は「文革以来」と称されるような峻烈（しゅんれつ）さで国内の言論を徹底的に弾圧しているが、それでもユーザーたちは一向におびえる様子はなく、彼ら特有のユーモアセンスと不屈の反抗精神をもって政権批判を続けているのである。

そういう人々がいる限り、そして彼らの皮肉な政権批判にほほ笑みを浮かべながら共鳴する中国国民が大勢いる限り、この国はまだまだ、希望というものがあるのではないかと。

【プロフィール】石平（せき・へい）1962年中国四川省生まれ。北京大学哲学部卒。88年来日し、神戸大学大学院文化科学研究科博士課程修了。民間研究機関を経て、評論活動に入る。『謀略家たちの中国』など著書多数。平成19年、日本国籍を取得。